



これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただくことができます

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介④

県少年の主張大会(尾花沢大石田地区)に出場した、福原中学校3年の矢萩愛実さんの内容を紹介します。

■「格差のない社会に向けて」

飛行機の窓には、コバルトブルーの海と白い砂浜、そして、遠くには、近代的なビルが並び立っている風景が広がっています。

こうして私が、母の故郷、フィリピンの首都、マニラの空港に降り立ったとき、真っ青に澄んだ空からは、いかにも南国らしい焼けつくような日差しが降り注ぎ、まるで私を歓迎してくれているかのように感じました。また、高層のビルが立ち並ぶ光景は、日本の首都「東京」をほうふつとさせるほどで、都市としての機能がどんどん発展しているのだと、驚くばかりでした。

しかし、都市部の整備された道路を通り、空港から離れるにつれ、道路の状況が悪化し始め、町の様子も近代的なものから、さびれた雰囲気が変わっていききました。するとそれに伴って、道の両側に、いかにもホームレスであろう人々や、ストリートチルドレンと呼ばれる身寄りをなくした子ども達の姿が増えてきたのです。私はその様子を見て、胸が痛くなり、悲しい気持ちになりました。そして、「都市部はこのように発展しているのに、なぜ、こんなに多くの人がひどい生活を送らなければならないのだろう」という疑問が浮かんできたのです。

日本に戻った私は、早速、フィリピンの状況について、調べてみることにしました。すると、国としては、著しい経済成長を遂げている半面、2021年時点で、約2614万人の人々が貧しい生活を強いられていることがわかりました。また、「OECD」経済協力開発機構の資料によれば、この貧富の差、つまり経済格差が大きくなった原因の一つとして、都市部やリゾート地などの観光を中心とする第三次産業は発展したものの、都市周辺の農村では、道路の整備などが進んでおらず、製造業などのたくさんの人を必要とする産業の発展も追いついていないという地域格差のことが挙げられていました。

では、こうした経済格差は、どのような影響を与え

るのでしょうか。

それは、格差の拡大です。貧困にあえいでいる人々は、日々の生活費にすら窮しているのですから、子ども達の教育にお金をかけることはできません。そうすると、教育を受けられなかった子ども達は、成長しても、働き口を見つけることができず、路上生活をしながら、ごみ拾いをしたり、日雇いの仕事をしたりして、貧しい生活をするしかないのです。そして、その子ども達も……。こうして、豊かな生活をしている人との差がどんどん広がっていくのです。

一つの格差が、他の格差に影響し、救いようのない苦しみの中で生きるしかない人を生み出すような社会を、私たちは、決して望んではいません。未来を創る私たちが、築かなければならない社会は、どんな人でも平等に生きられる社会なのです。

経済格差、教育格差、男女格差、情報格差、医療格差など、多種多様な格差が存在する現在、自分の置かれている状況に苦しんでいる人が、きっと多くいるのではないのでしょうか。もし、このような格差のある社会、平等に生きられない社会が、これからも続き、広がっていったら、その先にあるのは、争いだけです。しかも、いったん争いが起これば、その争いを原因とした新たな格差が生じ、そのせいで争いが広がっていくことになりかねません。

こう考えれば、誰もが平等に生きられる社会を築いていくことは、平和な社会を築いていくことにつながるのです。

私は、今回母の故郷を訪れたことで、今の社会について深く知り、考えるきっかけを持つことができました。そして、未来について想像することもできました。この経験を生かし、格差のない社会、平和な社会の構築に少しでも貢献したいと思います。



【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330